

平成17年度品川区学力定着度調査より

品川区立小中一貫校日野学園（第二日野小学校）

国語

調査結果

問題番号	問題の種類及びその内容	領域	正答率%	習熟基準%
一言葉の知識 漢字の「読みとり」と「書きとり」をする				
	漢字の読みとり「音」4年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「音」4年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「音」5年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「訓」5年	言語事項	66.7	80
	漢字の読みとり「音」6年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「音」6年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「訓」6年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「訓」3年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「音」3年	言語事項	77.8	80
	漢字の読みとり「音」5年	言語事項	77.8	80
	漢字の書きとり「訓」3年	言語事項	66.7	70
	漢字の書きとり「訓」3年	言語事項	77.8	70
	漢字の書きとり「音」4年	言語事項	77.8	70
	漢字の書きとり「音」3年	言語事項	77.8	70
	漢字の書きとり「音」3年	言語事項	77.8	70
	漢字の書きとり「訓」3年	言語事項	77.8	70
	漢字の書きとり「音」5年	言語事項	55.6	70
	漢字の書きとり「訓」4年	言語事項	66.7	60
	漢字の書きとり「訓」5年	言語事項	77.8	60
	漢字の書きとり「訓」5年	言語事項	77.8	60
二言語事項 漢字や熟語の意味と知識の理解と言葉の使い方				
一	非 をつけて反対意の漢字	言語事項	77.8	80
一	未	言語事項	77.8	80
一	無	言語事項	77.8	80
一	非	言語事項	44.4	80
一	無	言語事項	66.7	80
二	前の文の言い換え	言語事項	77.8	80
二	前の文の反対	言語事項	77.8	80
二	前の文の程度や段階を増す	言語事項	88.9	60
三	熟語の成り立ち 1 + 2	言語事項	88.9	80
三	熟語の成り立ち 2 + 1	言語事項	88.9	80
三	熟語の成り立ち 2 + 1	言語事項	66.7	80

三	熟語の成り立ち 1 + 2	言語事項	66.7	80
四	助詞 で	言語事項	77.8	80
四	助詞 こそ	言語事項	66.7	80
四	助詞 だけ	言語事項	77.8	80
五	修飾語が修飾している言葉を選ぶ	言語事項	44.4	60
五	修飾語が修飾している言葉を選ぶ	言語事項	66.7	60
五	修飾語が修飾している言葉を選ぶ	言語事項	55.6	60
五	修飾語が修飾している言葉を選ぶ	言語事項	55.6	60
三 書くこと				
一	適切な語句の選択	書くこと	55.6	80
二 ア	動作と主体の正しい組み合わせ	書くこと	88.9	80
イ	動作と主体の正しい組み合わせ	書くこと	77.8	80
ウ	動作と主体の正しい組み合わせ	書くこと	77.8	80
エ	動作と主体の正しい組み合わせ	書くこと	66.7	60
オ	動作と主体の正しい組み合わせ	書くこと	88.9	80
三	空欄に当てはまる言葉	書くこと	88.9	80
四	筆者の考えを読み取る	書くこと	88.9	80
五 (1)	テーマに関しての自分の意見	書くこと	77.8	80
(2)	よい点にふれながら書く	書くこと	77.8	80
四 読むこと 説明的な文章を読み取る				
問一	内容を 5 文字で抜き出す	読むこと	66.7	60
問二	正しい説明を選ぶ	読むこと	88.9	80
問三	筆者の主張を読み取る	読むこと	88.9	80
問四 A	役割	読むこと	55.6	60
B	持続	読むこと	55.6	60
問五	段落を 3 つのまとまりに	読むこと	44.4	60
五 読みこと				
問一	登場人物とその効果を考える	読むこと	55.6	80
問二ア	心情の変化としてふさわしくない	読むこと	77.8	80
イ	心情の変化としてふさわしいもの	読むこと	77.8	80
ウ	心情の変化としてふさわしくない	読むこと	77.8	80
エ	心情の変化としてふさわしいもの	読むこと	66.7	80
問三	行動と心情を結びつける	読むこと	66.7	80
問四	心情理解とその表現適切な言語	読むこと	100	80
問五ウ	関連図書を調べる	読むこと	88.9	80
エ	インターネットで検索する	読むこと	77.8	80
オ	資料館・記念館等問い合わせる	読むこと	77.8	80

結果の概要

学力調査受験者は、全員の9名である。母集団が小さく、児童一人が11.1%の比率である。通過率の数字で習熟基準に近いものは、たとえ下回っていても、極端な場合を除き（赤字）通過率を超えていると判断した。児童の構成上 77.8%をほぼ100%とみなして考えている。

領域等	定着概要
一 言語事項	概ね定着
二 言語事項	一問を除き、概ね定着
三 書くこと	一問を除き、概ね定着
四 読むこと	段落のまとまりを関連付けるところを除いて、概ね定着
五 読むこと	一問を除き、概ね読み取りが概ね定着

- ・ 漢字の読みについては、1問（連れるの音読み）を除いて、習熟基準を100%近い数字で定着している。
- ・ 言語事項については、概ね習熟基準を上回っている。「非」の使い方、修飾関係語句で一問ずつ習熟基準を下回っていた。
- ・ 書くこと、文章中の語句を適切な言葉に置き換えることの通過率が低い。
- ・ 読むこと、説明的な文章で、6つの段落の文章を3つの意味段落に分ける問題が過半数を割った。
- ・ 読むこと、文学的な文章で、行動の効果を考える問題が基準を下回った。

結果から明らかになった課題

- ・ 漢字の書きについては、繰り返し指導すること概ね定着してきている。さらに、指導を継続する。
- ・ 言語事項では、文と文との関係を考えさせる問いを授業の中で発し、常に考えさせる。
- ・ じっくり読ませ、心情やその背景、人間関係をつかませ、また文章の構成をとらえさせるなど書かせて、つかむ活動を重視する。

今後の改善・対策

- ・ 個々の児童の実態に応じて、意欲をもってできるように準備する。
- ・ <ステップアップ学習（基礎基本）の充実>
漢字・言語事項を徹底的に行う。一人ひとりの習熟度に応じて低学年の復習が必要な児童には、個人指導を行なう。
- ・ <漢字テストの日、漢字の練習時間の確保>
毎週決まって漢字テストのほか、毎日家庭学習で漢字練習帳に書いて覚える活動をする。
- ・ <推薦図書を読み、図書の時間を充実させる>
図書の時間に読み聞かせを取り入れ、読書への関心を高め、読書カード等を活用して、読書量を常に把握し、個々の読書量の目標を決め、取り組む。本の紹介などで、読書に関する関心を高める工夫をする。
- ・ 説明文などの文章を読む活動を取り入れ、分析的に読む訓練を行う。
- ・ 電子漢字練習ドリルを行い、単元ごとや学年の復習をしっかりと行う。

算 数

調査結果

問題番号	問題の種類及びその内容	領域	正答率%	習熟基準%
1 -(1)	小数たし算	計算問題	77.8	80
(2)	小数わり算	計算問題	88.9	80
(3)	通分のある分数たし算	計算問題	77.8	70
(4)	整数×分数	計算問題	77.8	80
(5)	加減の混合整数算	計算問題	66.7	80
(6)	加減乗の混合整数算	計算問題	66.7	70
2 -(1)	分数の大きさ	数と計算	77.8	80
(2)	四捨五入によるがい数	数と計算	55.6	70
(3)	わり算の逆算	数と計算	55.6	60
(4)	分数で表す	数と計算	44.4	60
	分数で表す	数と計算	55.6	60
3 -(1)	分数・小数混合の大小	数と計算	55.6	60
(2)	小数の積・商の大小	数と計算	55.6	60
(3)	小数除法文章題 式	数と計算	66.7	80
	答え	数と計算	66.7	70
	あまり	数と計算	33.3	60
4 -(1)	分度器で角度を測る	量と測定	55.6	70
(2)	巻尺の目盛りを読む	量と測定	55.6	70
5 -(1)	平行四辺形の面積	量と測定	77.8	80
	三角形の面積	量と測定	77.8	60
(2)	直径から円の面積 式	量と測定	77.8	60
	答え	量と測定	77.8	60
(3)	長方形の組み合わせ面積 式	量と測定	77.8	70
	(分割して求める) 答え	量と測定	77.8	70
	長方形の組み合わせ面積 式	量と測定	77.8	70
	(引いて求める) 答え	量と測定	66.7	70
6 -(1)	平均	数量関係	77.8	80
(2)	速さ	数量関係	77.8	80
(3)	百分率 式	数量関係	66.7	60
	答え	数量関係	66.7	60
(4)	比例関係を求める 式	数量関係	66.7	80
	答え	数量関係	66.7	80
	単位あたりの数量 式	数量関係	66.7	70
	答え	数量関係	66.7	70
(5)	単位あたりの数量 式	数量関係	77.8	60

	答え	数量関係	77.8	60
(6)	比	数量関係	77.8	75
	比	数量関係	77.8	75
(7)	グラフから数量を求める	数量関係	66.7	70
	グラフから人数を求める	数量関係	55.6	60
7-(1)	二等辺三角形を選ぶ	図形	55.6	80
	平行四辺形を選ぶ	図形	55.6	80
(2)	立体図形の展開図を選ぶ	図形	66.7	80
8	作図	図形	77.8	80

結果の概要

領域等	14年度	15年度	16年度	17年度
数と計算	全問中3問以外概ね定着	全17問中9問で未定着	全問中4問以外概ね定着	分数・小数わり算のあまりの2問
量と測定	全問で概ね定着	全10問中5問で未定着	全問で概ね定着	概ね定着
図形	全問で概ね定着	全問中1問以外概ね定着	全問で概ね定着	
数量関係	速さの以外概ね定着	全9問中4問で未定着	全問中4問以外概ね定着	

過去3年間と比較すると、数と計算の分数と小数のわり算におけるあまりの処理が基準以下になっているが、他の領域では、概ね定着できていると考える。

また、本校6年生の人数が9人という小集団なので平均の数値では大きな変動となって現れる。

その中で、児童の構成上 77.8%の正答率を、ほぼ100%の定着とみなしている。

結果の分析と解説

【数と計算】

- ・整数、小数、分数の計算（加減乗除）の計算はできている。
このことから基本的な計算問題を解く力は育ってきていることがわかる。
- ・（ ）を使った計算（加減乗除の混ざった計算）の仕方なども理解できている。
- ・小数の計算については、あまりのある計算も含めて解く力が身に付いている。
- ・がい数の仕方については、今後も更に重点指導を行う。
- ・文章問題（小数のわり算）については、式を立て商を導き出すことは概ねできている。
ただし、「あまり」に小数点を打つことについては十分定着していない。

【量と測定】

- ・分度器で角度を測ること、図示されたまきじゃくの目盛りを読むことができています。
- ・平行四辺形、三角形、円などの面積を求めることができる。
- ・複合図形の面積はほとんどの児童が解き方を理解している。

【図形】

- ・いろいろな図形を見分けたり、展開図を求めたりする力も十分定着している。

- ・作図の仕方も概ね理解している。

【数量関係】

- ・平均、速さなど公式がわかり、解き方を求めることができる。
- ・小数をかける文章問題や整数でわって商が小数になる文章問題は、式を立てて解答を導き出すことができる。
- ・単分量あたりの大きさを求める問題は、定着している。
- ・比の考え方をを用いて数量を求める内容は十分身に付いている。
- ・帯グラフを読み、意味をとらえて、割合を求める力はある。

結果から明らかになった課題

- ・小数の計算は、あまりのあるわり算のあまりの小数点を打つことが身に付いていない。
小数の計算ではわり算に重点をおいて繰り返し指導を重ねてきたが、意味をとらえさせたり、検算させたりしながら定着させる。
- ・単分量あたりの大きさを求める内容については、線分図を使った問題のとらえ方にさらに時間をとって理解させることは継続したい。緩めるとこれは定着率が落ちる。

今後の改善・対策

- ・ステップアップ学習 の充実をはかる
ステップアップ学習（必修）の時間を中心に、授業で学習した内容を習熟度に応じて段階的に指導をしていく。特に小数のあまりのあるわり算やおよその数を求める内容については重点的に時間をとり、くり返し練習していく。（割り引きした代金を求める内容や単分量あたりの大きさについても同様である。）
- ・授業での復習の時間を活用する。
本校では、単元の終わりに復習の時間を設定している。その中で習熟度に応じた指導を行っていく。
- ・個人カルテを活用した習熟度別学習の充実を図る。
本校で活用している個人カルテを活用し、各単元の習熟度をみる。それに依りてステップアップ学習 や授業の復習の内容を児童に応じて設定し、学習を進めていく。
- ・5・6年生は、中学籍の数学教員による指導が始まる。十分実態を引き継ぎながら指導を高める。

学力の検証方法

2月を「学力定着度調査月間」として以下の調査を行なう

国語・算数の教研式学力テストを行い、全国レベルと比較する。

学期ごとに漢字定着度テストを、特に2月は学年配当漢字について全学一斉に調査する。

計算習熟度テストを行なう。

読書量調査を行なう。

調査結果を次の方法で公開します。

保護者会 外部評価者会議 ホームページ 学校だより 報告書として配布

学力定着度調査を踏まえた国語科の結果の分析と対策

(1) 漢字の読み・書き

「漢字の読み」は、概ね満足できる結果であったが、「漢字の書き」では、送りがなまで書く訓読みの漢字に習熟していない傾向が見られた。また、「とめ」や「はね」「はらう向き」などの正確さに欠けたため不正解になったと思われる漢字があった。

書き誤りやすい漢字については、取り上げて注意を促し、確認する丁寧な指導を行いたい。また、例文の中で漢字を書かせる、作文の中で漢字を活用させるなど、語彙を活用する力を育成する指導を継続的に行うことで、漢字を書く力を伸ばしていきたい。

小学生への指導については、品川区で作成した漢字の副読本「漢字ステージ」を利用した学習によって、漢字の筆順確認、文章における語彙理解、作文への活用といった指導を行い、弱点補強を目指したい。

中学生の指導については、ステップアップ学習での継続的な指導によって、漢字の力を補強していきたい。

(2) 言葉の知識

接続語や助詞、三字熟語の成り立ちを問う問題に関しては、十分満足できる結果が出ている。

一方、「修飾語・被修飾語」の問題での正答率が低く、「修飾」という言葉の意味がわからず理解が不十分であったと思われる。文法として指導するだけでなく、作文指導や日頃の授業の読解指導の中でも取り上げ、繰り返し確認するようにしたい。

(3) 文章作成

自分の意見を持ち、意見の理由を文章で書く問題や、文脈を判断する問題の正答率は高く、満足できる結果が得られている。引き続き、自分の意見を文章で表現させる指導を行っていきたい。

(4) 文章理解

文学的な文章では、登場人物の心情とその変化を読みとる力は十分あるが、登場人物の行動と心情を結びつけて読むことがやや苦手である。作品を丁寧に読み、様々な表現から人物の心情を読みとらせる指導が必要である。

説明的な文章の読み取りでは、筆者の主張を読み取る問題については正答率が高い。しかし、文章の要旨をつかんでキーワードを探したり、構成を理解して段落に分けたりする問題の正答率が低い。キーワードに注意して文章を読み解き、文章構成を理解させる指導が必要である。また、読解としてだけでなく作文指導の中でも説明的な文章を書かせる指導を取り入れたり、スピーチなどの「話す」領域においても論理的に物事を説明させる学習を行いたい。

学力定着度調査を踏まえた算数(数学)科の結果の分析と対策

(1) 数と計算

小数のたし算やわり算、整数と分数のかけ算の計算問題は、正答率が習熟基準を概ね上回っている。しかし、「通分が必要な分数どうしのたし算」、「ひき算とわり算のまざった整数どうしの計算」では、正答率が習熟基準より低い傾向にある。また「生活の中の数量を分数を用いて表す」問題の正答率も低かった。

小数や分数の計算は、整数の計算と並んで数学の必要な基礎学力のため、それらが混ざった計算については、できるまで個別指導をする場面を設定する必要がある。

昨年度とほぼ同様の傾向であり、(5)のように対応策の充実を図る。

(2) 量と測定

分度器を使った図形の角度や、まきじゃくをつかった長さの計測、面積を求める問題の正答率は、全ての問題で習熟基準を上回っている。とくに面積を求める際の基礎的な計算方法に習熟している。

これも昨年度とほぼ同様の傾向である。

(3) 数量関係

正答率は全ての問題で習熟基準を上回っている。平均や速さ、比例関係などの基本的な問題では正答率が高かった。しかし、「商品の定価に対する売値の割合」を求める割合の応用問題や、分数のわり算を必要とする「1mあたりの単位量」を求める文章問題の正答率が低かった。これら割合や、「分数でわることの意味をとらえる」ような基礎的な概念を理解させるため、数直線を活用して二つの量の関係をわかりやすく説明し、日常の生活場面に即して文章問題をイメージ化しやすくして指導するなど、具体的な手立てを講じながら指導していく必要がある。

これも昨年度とほぼ同様の傾向で、(5)のように対応策の充実を図る。

(4) 図形

他の分野に比較すると図形の分野の正答率が最も高い。いろいろな図形の中から指定された図形を選んだり、立体図形の見取り図から展開図を選んだりする問題、また、ひし形を作図する問題が出題されており、平面図形、立体図形ともにそれぞれの正答率が習熟基準を大きく上回っている。

これも昨年度とほぼ同様の傾向である。

『小中一貫校としての良さを最大限に生かす』

基本方針

小中一貫校として、小中一貫教育カリキュラムに基づいて9年間の学習活動を通して、基礎基本の定着と応用力を高めていく。まず、1～4年は、基礎基本の定着を徹底させる。次に、5～7年では、一貫校の特色でもある中学校の教員による教科担任制をどの教科にも導入し、専門性を生かした指導によって、基礎基本のさらなる定着と発展的な学習の基礎となる力を付けていく。さらに、8・9年生は、基礎基本を確実なものとし、発展学習に取り組む態勢を構築していく。

また、豊かな人間性を身につけ、社会力を育むために、市民科の授業を充実させるとともに、学級・学年での活動、小中一貫校ならではの異学年の活動、学校行事などを実施することで、多面的な学力と豊かな心を育てていく。

日野学園重点項目

小中一貫教育カリキュラムの実施と教科担任制の実施
ステップアップ学習 ・ ・ の充実。ステップ による基礎基本の定着、ステップ における学習キャリアアップ、ステップ での問題解決学習
習熟度学習、少人数学習、個別学習など様々な学習形態の展開
小中一貫校の特色を最大限に活用し、豊かで多面的な学力と豊かな心の醸成

1. ステップアップ学習 における基礎基本の徹底

1～9年すべての学年において、毎日の25分間の小刻みな学習の積み上げによる基礎基本の徹底を図る。1～4年は、国語・算数・英語の3教科で、漢字の読み・書き、算数では簡単な計算、を繰り返し学習する。英語では児童に興味関心を持たせる意識付けを中心に行う。

5・6年でも、国語・算数・英語の3教科で実施し、国語・算数・英語の基礎基本の定着を図る。7年では、5教科すべての教科について全員にローテーションして学習させることで、小学校での学習の基礎基本を振り返って学習すると共に、すべて教科の基礎基本を徹底させていくようにする。8・9年においては、5教科の中から、生徒が自分で2教科を選択し、不得意な教科の克服を目指すことに重点を置く方法や得意な教科をさらに確実なものにしていく方法と、各自の判断で選択し学習していく。

基礎基本の指導の中で、学力調査では、正確さに欠けることが指摘されている。その点を改善していくように、各担当者も十分配慮し、指導していく。

2. ステップアップ学習 ・ でめざす学力の向上

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

また、本校では、文部科学省の研究開発校として小中一貫教育の研究活動を行っている。その目標は、研究開発を通して、日常の授業の改善を図り、教員の授業力を向上させ、児童生徒の学力を向上させることにある。そのため、各教員が研究を重ね、かつ、すぐに研究授業の実践を繰り返し実施していく。

3. 多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

また、本校では、文部科学省の研究開発校として小中一貫教育の研究活動を行っている。その目標は、研究開発を通して、日常の授業の改善を図り、教員の授業力を向上させ、児童生徒の学力を向上させることにある。そのため、各教員が研究を重ね、かつ、すぐに研究授業の実践を繰り返し実施していく。

4. 小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上

本学園では、小中一貫校の良さを生かした教育活動を展開する。すでに今年度から実施しているが、専門性を生かした中学校教員による5年生からの教科担任制を全教科で展開し、学力の向上を図る。また、一貫校では小中教員の共同体制で、1～9年間のきめ細かな指導を展開していく。

さらに、1～4年ブロック、5～7年ブロック、8・9年ブロックでのまとまりを生かした学習活動を重視し、ブロックの教員が連携をとりながら、学習の指導を展開していく。